



水野昭彦著

『福澤諭吉譯 帳合之法 全四巻現代語譯』

福澤諭吉翁は、明治6年6月『帳合之法 初編』、翌年6月『帳合之法 二編』合計四巻（以下『帳合之法』とする）を慶應義塾出版局から出版した。本書は、『帳合之法』（二版）の現代語譯（以下『現代語譯』とする）である。

『帳合之法』は、『福澤諭吉全集 第3巻』等に収録されている。同書は、原本に比べて多少読みやすいが戦後生まれの読者には不便である。この不便を解消した『現代語譯』は、戦後生まれのわれわれにとって『帳合之法』が身近になった。

黒澤清先生は、『職業会計人の実践哲学－福沢諭吉の「学問すすめ」と「帳合之法」の研究』（TKC出版、1986）において、『帳合之法』と『学問のすすめ』は、不可分の作品であり、その内面的関係を閑却しては、そのいずれをも正しく理解できない」と主張されている（同書P.4）。この『現代語譯』によって、『学問のすすめ』（現代語版は出版されている）の理解度は高まることになるであろう。

水野昭彦氏は、この『現代語譯』出版の動機のひとつに、商業教育を担う教員のブラッシュ・アップの必要性を挙げられる。このことは、同氏が30年を超す商業科の教員として、また、商業高校の校長としての経験からの実感だろう。氏の含蓄のある指摘である。現在の商業科教員による商業教育は、HOW TOに傾注した観を否めない（思考・判断能力の育成が意識されない傾向にある）。同氏は、商業教育を「人づくり」の観点から力説される。この商業教育の「人づくり」の観点については、筆者の考えと異とするところであるが、福澤翁が目指した「実学」の啓蒙において理解できる。

つまり、福澤翁がいう「実学」とは、学問を日常生活や実社会に役に立てる科学のことである。

『帳合之法』の原書名は、アメリカの簿記書 *Bryant & Stratton's Common School Book-keeping*, 1871（初版は1861）である。同書は *Bryant & Stratton's Book-keeping Series* 3冊の中の1冊である。他の2冊は、*National Book-keeping*, 1860と *Counting House Book-keeping*, 1863である。本シリーズの編集者は、Henry Beadman Bryant（1824～1892）、Henry Dwight Stratton（1824～1867）、Silas Sadler Packard（1826～1898）である。『帳合之法』は、初編2冊と二編2冊の4冊である。初編2冊は、略式（単式）帳合である。二編2冊は本式（複式）帳合である。初編2冊は、原書のSET I～IVまですべて翻訳されている。二編2冊は、内容と分量を理由に原書のSET I～IIまでが翻訳されている。二編の未翻訳部分は、SET IIIと、SET IVである。

福澤翁の『帳合之法』翻訳の工夫については先行研究に譲るが、『現代語譯』はさらに註釈を付して理解を助けるための配慮がなされている。原書 *Bryant & Stratton's Common School Book-keeping*, 1871は、洋学堂書店（佐賀市）が複製版を出版している。『現代語譯』は、原書を理解する上でも大変役に立つ。例えば、原書ではBalance Sheetが貸借対照表（この用語は明治23年商法用語）ではなく精算表であることやアメリカ簿記書なのに決算において大陸式で用いられるとされている残高勘定を使用することなどがわかる（ただし仕訳帳に仕訳をせず赤記して残高勘定や損益勘定を締め切る方法である）。

以上のように、『現代語譯』は、会計学界への貢献のみならず、商業科教員の座右の書として加えられる良書である（1冊 価格1,800円＋送料340円）。

文責：

久留米市立久留米商業高等学校教諭 江頭 彰

問い合わせ先

〒441-8141 豊橋市草間町平南 77-1

水野昭彦 様